

明るい小矢部

No.178
2013年2月号

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

新しい視点 展望しめず
しんぶん赤旗
日刊紙 毎月3,400円
日曜版 毎月 600円

TPPで 農業、食の安全、医療が 脅かされる



各界の代表者が呼びかけた「ストップ TPP 山県民集会」1月1日、富山市北日本新聞ホール

「例外なき関税撤廃」が原則のTPP参加は農業の存続と両立しません。弱肉強食の「アメリカ型」ルールで食の安全や医療、雇用、環境、地域経済が脅かされます。日本共産党はJA、医師会など国民のみなさんと力をあわせキツパリ断念させます。

安倍政権 参加に前のめり

安倍政権になって、自公政権合意からTPP参加「反対」が消え、参加に前のめりです。

参院議員 井上さとし

井上さとし参院議員からのあいさつを紹介します。

参院選での自らの勝利と比例5議席獲得、日本共産党の躍進へ全力疾走します。

この間、参院国対委員長として消費税増税阻止のための野党の一点共闘や原案オスプレイ、TPP、復興財源の流用問題などの追及に力をつくしてきました。これらの問題は、自公政権では何ら解決しません。これまで以上に国民的共同を広げて取り組みます。

自公政権は、本格的悪政の推進と改憲のために、参院選挙で「ねじれ」を解消し、改憲勢力の3分の2の獲得をめざしています。絶対に負けられません。

総選挙での悔しさを胸に刻んでがんばります。大きな支援を下さりお願いします。

参院選へ 全力投球



なお、「TPP対策は働く人の所得を増やしてこそ」など、日本共産党の提言は、いっしょにお届けした「しんぶん赤旗」2・3月号外を「ご覧ください。」(編集部)

農業委員研修大会で 反対決議

しかし、県内でも広範な団体個人が「TPP反対」の声を上げ、共同の運動が広がっています。富山県農業委員研修大会(昨年11月15日)で、「TPP交渉は、米国基準の規制・制度を押しつける交渉であり、農業に限らずわが国の社会システムを崩壊させる危険なルールづくりだ」として、TPP参加反対を決議しました。

農協中央会、 COOPとやま、 保険医協会代表ら 県民集会で

「誰がTPP反対か 見極めよう」

12月1日には、「ストップTPP 山県民集会」が開かれ、「TPPに明確に反対を表明している政党や候補者をつかりと見極めること」が大切だ」とのアピールを満場の拍手で採択しました(写真)。

この集会は、穴田甚朗JA富山中央会会長や須沢キヨCOOPとやま理事長、矢野博明県保険医協会会長ほか3氏が、TPP反対の一点での共闘を呼びかけて開かれたものです。元砺波市長の安全鉄夫氏からもメッセージが寄せられました。

原発からの撤退を

放射能汚染から
市民を守るためにも

党の予算要望から

日本共産党小矢部市委員会は恒例の新年度予算要望で、原発からの撤退と再生可能エネルギーの転換を市長に求めました。志賀原発直下に活断層の存在が指摘されており、再稼働に反対するとともに廃炉を求めることが大切です。市民と子どもを放射能汚染から守るために不可欠の課題です。

12月市議会

住民合意が必要

高岡市が岩手県山田町の震災がれきを受け入れることを検討しており、その焼却灰の一部が小矢部市峰坪野の不燃物処理場に持ち込まれる可能性があることから、放射能の拡散、子どもへの内部被ばくが心配されています。砂田市議は12月議会で「焼却灰受け入れには住民合意が必要」「不燃物処理場に構造上の問題とは?」「市民全体を対象にした説明会の開催を」と求めました。

高岡副市長は「受け入れるものは試験焼却の結果でも1キロあたり26ベクレルで決してそう危険なものではないと理解しているが、何分にも将来にわたってこの市の不燃物処理場には遮水シートがない※注」を持っていくものですからある程度の区分が必要でしょう、そういうことを検討し、住民の方に説明し「理解を得たい」と答えました。

※注 不燃物処理場の放流水から、塩化セシウムは除去できず

ゴミ焼却場では、セシウムが塩化セシウムというたいへん水に溶けやすい化合物に変わります。不燃物処理場の浸出水から塩化セシウムを取り除くことができるのか。大沼淳一氏(元愛知県環境調査センター主任研究員)によれば、不燃物処理場で行われている浸出水の浄化に使われる凝集沈殿・砂ろ過、生物処理、活性炭吸着、キレート樹脂処理等の現行の浸出水処理工程ではほとんど除去されない(群馬県伊勢崎市最終処分場で浸出水の放射性セシウム223ベクレル/Kgが放流水では149ベクレル/Kgに。2011年9月12日測定)。

「えっ、沖縄の島々が 無人島に?」

参加したTさんの感想

講演で「沖縄の農業はサトウキビが主な農産物。TPPで砂糖の関税ゼロになるともう生産できない。そうなる沖縄の島々は、大隅諸島のよう無人島になる」と話されたのを聞いて、「これはたいへんなことになる」と感想を語っていました。



ひろば

桜宮高校での体罰による男子生徒自殺事件は、その後報道された本人の手記を目にするたびに悲しくなる。キャブ

テンだからと、理不尽にも殴られ続けたそうだ▼桑田真澄氏が小学生の頃から野球部で殴られていたが、それに納得したことがない。聞いて、彼の著書「野球を学問する」を読んでみた▼そこには中学時代に勉強して「知識が広がり、考える力がついてくると体罰がおかしいと思うようになった」とある。彼は、現役を引退した後、早稲田の大学院で野球の歴史を研究し、いま野球界の悪弊を正す道を探求している▼著書によれば、日本の野球が猛練習でアメリカ人チームに圧勝した1896年頃から精神主義に結びつき野球道といわれた。日清戦争の頃、明治維新後の西洋化への反動で日本の伝統文化、武士道への再評価が進む中で動きた▼そういう学校教育で体罰が容認されたのも、戦時下の軍事教練だったと聞く。戦前でも体罰は認められていなかったが、生徒に絶対服従を強いるために持ち込まれた。このころ、スポーツも戦争の時代にゆがめられていく▼桑田氏は武士道精神からスポーツマンシップへ、考える野球、合理的な練習を提唱しているが、納得させられる▼一方近頃の政治の動きが気になる。橋下大阪市長が桜宮高校体教科の入試中止、教職員の総入れ替えを迫る。受験生や在校生、保護者の声を聞かず、絶対服従を唱える安倍氏が首相になつた▼絶対服従と軍と言え、体罰につながった土壌ではないか。しっかり学んで、考える力を付けなければ。